

12月は雪の降る日が続き、気温もマイナス10度を下回っている。雪の匂いがするたびに地元である飛騨高山を思い出したかほっこりした気持ちとなる。だが長時間それにふけているとホームシックになってしまいそうなので注意が必要だ。

日本の大学でも主流なのかは確かではないが、RHITの授業の履修システムの一つとして、学期始まりの1週目は受講する授業を変えることができる。そのためもあり1週目の授業の内容は、そのコースで何を学ぶかの概要説明であったり、基礎的な問題を解いたりとあまり難易度の高い内容は出されない。しかし、2週目からは同じ授業なのかと思うくらい課題の量や難易度が上がる。そのため、この2、3週目は課題や授業の内容の理解に励むことと自分の生活リズムを固めることで精いっぱいだったため、ほとんどの時間は教授と話しているか課題をしているかのどちらかであった。

授業

Signal ProcessingのクラスではMATLABを使い基本的な三角関数などの計算や音のスペクトルの分析の仕方を学んだ。このクラスではソフトウェアに慣れるだけでなく、英語での数学表現を養うことができる。Discrete time systemでは、LTI systemの特徴やFourier transformの証明・活用法などを大まかに学んだ。また、ソフトウェアとしては主にLabviewを使っている。Image Processingのクラスでは画像のフィルタとして使われるCorrelationとConvolutionの役割・使い方・証明をFourierと比べながら学んだ。

授業や課題についていくのは簡単ではないが、これらはアメリカで学びたかった分野あり、かつ似たような分野を様々な角度から学んでいるのでやりがいを持って勉強できてる。

授業での発見

履修科目のうちの2つは週に1度ラボがある。ラボとは座学ではなく、アプリケーションなどを使って実践的な学術を学ぶ。そのラボは1つの科目で連続して3時間ある。しかし、3時間では足りないほど密が濃くて、量が多い内容となっている。先生や友達の協力もあり時間内に指定された範囲は終わらせることができるのだが、それは「こなした」だけでなぜそうなるのか聞かれると答えられない状態である。もちろんすべてを理解すべきかと言われたらそうではないのかもしれないが、上にも書いたようにかなり大事な内容が問題として出されている。これは宿題でも同じことが言える。しかし、だからといって度々出てくるものに飛びついては「ボールウォッチャー」となる。ボールウォッチャーとは、野球部に所属していた頃によく聞いた言葉でボールが来たらそれに追うことだけに必死になる人のことをいう。必死になった挙句、状況判断ができず、次の動作に繋がられない。没頭することは大切だが、本来の目的を忘れて没頭し過ぎることも問題だということだと思う。このようなことも頭に入れながら、非ネイティブという立場だからこそ少しでも効率的に分野の理解をすることに励んでいる。

イベント

大学も3週目が終わり、冬休みに入っている。私はこの期間をフロリダで過ごしている。12月なのに気温も湿度も高いため、気候の変化にはじめは戸惑った。私が参加しているこの宿泊プログラムは母国に帰れない留学生を対象にしている。そのためアフリカ人や中国人など様々な人たちが集まっている。時間があるこの

機会を使って、中国語やスペイン語などのフレーズをネイティブに教えてもらっている。成長は全く感じないが、他の国の言語がわかればさらにたくさんの人と話ができると考えるとワクワクするため、暇があったら「これって中国語/スペイン語/ツワナ語(ボツワナ)でなんていうの？」と質問しては小さな講義が始まる。自己紹介くらいはできるようになりたい。

終わりに

授業の理解度も1学期目と比べると良くなり、授業中の発言、先生に話しに行くことが習慣化してきた。しかし、未だに数学的用語がうまく使えていない状態であるため、登下校の際にそれに関する動画を見ている。3週目にあったテストでは十分な準備をして挑むことができたため、このリズムを崩さずに継続していくつもりだ。4週目からは研究に関するミーティングも始まってくるため忙しくなることが予想されるが、自分が学びたいことが学べているこの状況に感謝して残りの留学生生活を目的を持って過ごしたい。